

第 11 回高知市総合教育会議 議事録（概要版）

- 1 日 時 令和 2 年 2 月 10 日(月)
開会：午後 2 時 30 分 閉会：午後 4 時 00 分
- 2 開催場所 本庁舎 6 階 611・612・613 会議室
- 3 出席者
- | | | |
|------------|-----------------|--------|
| (構成員) | 高知市長 | 岡崎 誠也 |
| | 高知市教育委員会 教育長 | 山本 正篤 |
| | 委 員 | 谷 智子 |
| | 委 員 | 西森 やよい |
| | 委 員 | 野並 誠二 |
| | 委 員 | 森田 美佐 |
| (事務局) | 総務部副部長 | 加藤 勝巳 |
| | 総務部市長公室政策企画課長 | 西成 英丈 |
| (市長事務部局) | | |
| | 高知市副市長 | 吉岡 章 |
| | 高知市副市長 | 中澤 慎二 |
| (教育委員会事務局) | | |
| | 教育次長 | 弘瀬 健一郎 |
| | 教育次長 | 高岡 幸史 |
| | 教育政策課長 | 島内 裕史 |
| | 教育政策課長補佐 | 濱田 光 |
| | 教育政策課総務担当係長 | 神岡 純子 |
| | 学校教育課長 | 溝渕 隆彦 |
| | 学校教育課教育企画監 | 和田 広信 |
| | 学校教育課指導主事 | 佃 典高 |
| | 教育環境支援課長 | 岩原 圭祐 |
| | 教育環境支援課情報整備担当係長 | 中山 智広 |
| | 教育環境支援課指導主事 | 高畑 将樹 |
- 4 議 題 (1) G I G A スクール構想の実現について
(2) 高知市教育大綱について

5 議事の経過

- G I G Aスクール構想の実現について、教育委員会事務局から【資料4】【資料5】に沿って説明

- (1) 教育のICT化に向けた環境整備5か年計画の整備状況について
- (2) G I G Aスクール構想の実現に向けた整備の方向性について
- (3) 児童生徒1人1台コンピュータの実現を見据えた国の施策パッケージについて
- (4) 文部科学省が策定したG I G Aスクール構想の実現ロードマップについて
- (5) ICT活用指導のデモンストレーション

- 議論

(谷委員)

以前から、テレビやOHPを使用した、視聴覚教育や放送教育といわれる指導方法があったが、主に機器が得意な教員が実施するものであった。今後のデジタル教材には、全教員が関わる必要がある点が大きな違いである。

ハード面を充実した際に、重要になるのがソフト面、つまり機器を使用する教員の指導体制である。教員にも機器が得意な方もいれば、苦手な方もいる。学校全体でICTを活用するのであれば、どの教員も意欲を持って積極的に活用できるような指導体制づくりが重要となる。指導体制づくりはどのように進めていくのか。

(弘瀬教育次長)

集合研修等によって周知を図りながら、状況に応じて教育委員会が実際に学校に出向き、学校規模に合わせて活用方法を周知していく予定である。

また、学校の中で教員を育成する指導体制づくりも重要となるため、核となる教員が中心となり指導方法を研究しながら、その成果を教員間で共有できるようなシステムを構築したいと考えている。

(岡崎市長)

現在も教科会では指導方法の研究をしており、そこにデジタル教材が入ってくる形になる。小学校と中学校では、教員が指導すべき教科数や専門性が異なるが、その点についてはどうか。

(弘瀬教育次長)

学力向上推進室には教科ごとに指導主事がいるため、教科別にデジタル教材の効果的な使用方法を、学校現場に入っていくながら指導できると考えている。また、教育研究所にはICT支援員もいるため、ICT支援員を効果的に活用し、更なる普及促進を図ることにしている。

(森田委員)

デジタル教材の活用により、教育の質が高まるのではないかと感じている。英語の発音等、今までは教員の力量や熱量に左右されていた部分が、動画等の活用によって一定の質を保てるようになる。

また、デジタル教材を活用することで、教員の負担も軽減する。授業を分かりやすくするための工夫として教員が教材を製作していた時間が削れ、相当な労力削減につながると思う。

現在、家庭学習でもICTが活用されており、パソコンの所有の有無によって、子どもの家庭学習の効果に差が生じている。学校現場でのデジタル教材の活用は、そのような格差の是正にもつながると期待している。

デジタル教材を効果的に活用できるかどうかについては、教員の力量が問われる。授業が楽しくなる仕掛けが多いからこそ、児童生徒が興奮し、授業内容から注意がそれることもある。児童生徒をどのようにまとめていくか、授業の目的等をどのように児童生徒に理解させるかという力量を、これからの教員は問われることになる。

(西森委員)

説明の中にあつた、デジタル教材は子どもとのやり取りのためのツールであるという言葉が、非常に印象に残った。以前から、テレビ等の機器を活用した授業はあつたが、定められた授業スタイルからは出ないものであつたと思う。電子黒板等のデジタル教材は、子どもたちに授業を楽しみたいと感じてほしいという思いを強く感じた。今までは、授業中は授業として教えられていること以外に興味を持つてはいけないという印象であつたが、これからは子どもの興味の赴くままに、面白く感じられる授業をしていただけないのではないかと期待している。

また、電子黒板は細かいデータを焦点化するには最適なツールだと思うが、授業のおおまかな流れの理解や知識の定着化には書くことも必要であるため、全てが電子黒板に取って代わるのではなく、板書と併用されていくのだと思った。

ICTに対する考え方は人それぞれであるが、【資料5】の「保護者をはじめ社会の意識改革」という記載は、具体的にどのようなことを想定しているのか。

(弘瀬教育次長)

1人1台のパソコンを使用することが、学校でも当たり前になったということ、周囲の方に認識していただいたうえで、デジタル教材の使用が全てではなく、「読み書きそろばん」という学習活動も大事していることを伝えていく必要がある。デジタルとアナログにはそれぞれ良さがあり、それを学校としても発信していくことにしている。

(岡崎市長)

先日読んだGIGAスクール構想を特集した雑誌に、「デジタル教材はあると良いではなく、なくてはならない教材となる」という趣旨の記載があった。恐らく今後、デジタル教材は必需品となってくるが、一方で、デジタル教材は全てを解決するものではないということを、よく理解しておく必要がある。例えば、文字の読み書き等、アナログを活用していくことが必要な場面も多くある。

(野並委員)

デジタル教材は非常に便利だが、デジタル教材は画面上で様々な操作が簡単にできるため、最初からデジタル教材を与えられると、想像力が働かなくなる懸念がある。そのため、低学年のうちに想像力を高めるトレーニングをしておく必要があると感じた。

また、デジタル教材は見えている情報量が多いからこそ、教員がそれをどのようにコントロールして、教科書として活用していくかということが重要である。

(岡崎市長)

情報量が多いからこそ、教員には、いかに本質を捉えて児童生徒に教えていくかということが問われる。教員は、様々な課題の中で、情報を整理していかなければならない。

文部科学省は令和5年までに、児童生徒1人1台のコンピュータ整備の実現をめざしているが、情報保護の観点からはどうか。

(教育環境支援課岩原課長)

学校でのコンピュータ使用に関して、児童生徒が個人的な情報を入力したり、使用したりすることはないため、児童生徒の個人情報が漏洩することはない。

(岡崎市長)

学籍簿等、児童生徒の個人情報を扱うシステムや回線は、児童生徒が使用するものとは別系統であるため、児童生徒が使用するコンピュータから個人情報が漏洩することはないということに、ご理解をいただきたい。

デジタル教材については、使い慣れていない教員が身構えてしまうことのないように、研修会等で十分に活用方法を周知していただきたい。

● 高知市教育大綱と第3期教育基本計画について【資料6～資料9】に沿って説明

(谷委員)

高知市教育大綱は非常によくできている。教育には、いつの時代も不易と流行があり、時代に即してあるものが流行したり、教育的に重要な位置づけになったりしたとしても、

教育の不易は常に重要だと言われている。これを踏まえて、高知市教育大綱の基本目標をみると、「知・徳・体」や、「地域との協働」、「教育環境」という教育の不易が網羅されている。さらに、高知市教育大綱の基本目標は、文部科学省が策定した第3期教育振興基本計画の目標とも概ね共通しているため、現行を継続していくべきだと考える。

(西森委員)

【資料9】では、高知市教育大綱との対応が示されていないが、文部科学省の第3期教育基本計画の目標(4)、(5)、(12)については、実際は対応している部分があると思う。「目標(4)問題発見・解決能力の修得」は、自ら学ぶということは、何を学ぶかを自分で探すということであるため、基本目標Ⅲの「自ら学び、学びの楽しさを共有できる力の育成」に対応している。「目標(5)社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成」及び「目標(12)職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身につけるための社会人の学び直しの推進」は、基本目標Ⅰの「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」が、人生を通じた教育の在り方や、実際に自分がどのように社会内の位置付けを確保していくかということに通じるため、内容として対応していると思う。

質問だが、高知市教育大綱には評価という視点が入っているか。本来、学びとは評価を受けるべきものではないと思う。評価という視点が入ると、他人と比べ劣っていると感じるきっかけとなり、自己肯定感の低下につながる。教育大綱の在り方として、誰に何を呼びかけているのかを改めて考えてみる必要がある。高知市教育大綱の基本目標は、あくまで目標を掲げているものであり、評価を取り込んでいるものではないと考えて良いか。

(学校教育課和田教育企画監)

高知市教育大綱の基本目標は、評価等を想定しているものではなく、高知市としてこのような教育を展開していくという大きな目標である。その目標を展開していくための施策や取組、事業を掲げているのが、高知市教育振興基本計画である。

(山本教育長)

教育大綱は、教育委員会の市民に対する決意表明のようなものだと考えている。先ほど、高知市教育大綱を策定して以降の大きな時代の変化として、GIGAスクール構想の実現について説明した。この点についても、高知市教育大綱の「基本目標Ⅴ 学びと育ちを支える教育環境の向上」に含まれているため、次期高知市教育振興基本計画の中で、教育環境整備の推進として対応することが可能だと考えている。

(岡崎市長)

【資料9】では、第3期教育振興基本計画の目標について、「主として高等教育段階」

「生涯の各段階」等の段階分けがされているが、小学生や中学生はよく地域のことを見ており、大人の視点と変わらないことが多々あるため、段階分けの必要性はあまりないと考えている。

最近、子どもたちのパワーが少し減少しているのではないかと懸念している。昔は、その表れ方の是非は別として、有り余るパワーがあったが、それが少し無くなってきているように思う。そういう意味では、高知市教育大綱の基本目標Ⅰとして掲げている「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」が重要であり、この目標に対して、教育現場では何をするのか、改めて具体的な取組を考えていく必要がある。

(森田委員)

若者が社会を生き抜く力ということを改めて考えたときに、多角的なものの見方ができるかどうかということが重要である。勉強して良い大学に入ることを目指す学習体制では、勉強だけを評価のものさしとするため、ものの見方が単眼となる。多角的なものの見方を実現するためには、高知市教育大綱をどのように推進していくべきかを、改めて考える必要がある。

具体的には、生涯学習をする大人の姿を見て、若者も学ぶ楽しさを感じられるような、社会人の学びの場を支援する仕組みが必要だと感じた。

(野並委員)

近年、社会構造が大きく変化しており、今後も更なる変化が予想される。人口減少や少子高齢化が叫ばれる中で、教育業界にも大きな変化があると思う。そうした将来の変化に向けた取組を、教育大綱の基本目標のような大きな項目ではなく、教育振興基本計画等の細目に落とし込んでいく必要がある。

(西森委員)

自己肯定感の話に戻るが、自分を肯定できるのは自分だけなのではないかと考えている。他人から与えられる自己肯定感、その他人がいなくなったときにどうするのかという課題に直面するため、基本的には自分で自分を肯定することが大事だと思う。そうして考えると、教育の不易が教育大綱に入っていることが重要である。高知市教育大綱を体現できている人は、自己肯定感も高いのではないかと思う。細かい部分については、時代の変化等に応じて修正していく必要があるが、教育大綱の基本目標としては、変更する必要がないと感じている。

(岡崎市長)

高知市教育大綱については、教育の不易が書き込まれているため、現在のものを継続するという意見で一致した。本日いただいた教育の本質に関わる大事な意見も含め、時代の

変化に応じて、現状の課題に対応すべき部分については、高知市教育振興基本計画の見直しの中で反映していきたい。

- 閉会